■高値更新が続く日本株

6月に入っても日本株の上昇が止まりません。日経平均株価は16日の終値で33,706円と、バブル経済崩壊後の高値を更新しました。東証(東京証券取引所)による低PBR銘柄への資本効率改善要請や日銀による金融緩和政策の維持等を背景に、引続き海外投資家による日本株買いが続いていることがその理由です。6月第1週(6月5～9日)まで11週連続で現物を買い越していることからも、海外投資家の関心の高さが窺えます。

特に好調なのが海外投資家からの知名度が高く、流動性もある大型株です。円安進行による業績改善期待等も手伝い、大型株の指数であるTOPIXコア30は年初から約27%上昇しています(図表①)。一方で小型株指数(TOPIX Small)の年初からの上昇率は約15%と、大型株から出遅れています。

ただ、足元では小型株を取り巻く環境に変化の兆しが表れ始めています。東証グロース市場における売買動向を見ると、海外投資家は2023年に入って以降、累計で1,257億円売り越していましたが、5月第3週(5月15～19日)に今年最大の買い越し金額(166億円)を記録しました(図表②)。

今後は主力の大型株から徐々に小型株へと物色の広がりが予想され、小型株の水準訂正に繋がることが期待されます。

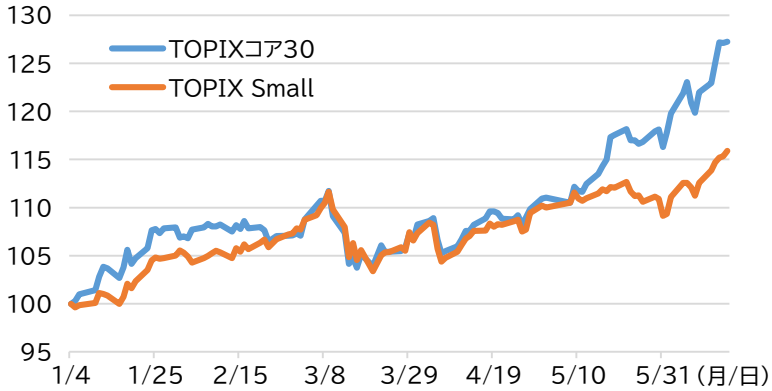
■今後は小型株の優位性が高まる展開に

海外マネーが大型株から小型株へと波及し、本格的な小型株ラリーへと至った例は過去にもあります。

米大統領選にてトランプ氏が勝利し世界的な株高となった2016年の相場では、世界の主要株価指数の中で日経平均株価が年後半において突出して上昇しました(図表③)。そして、翌2017年は海外投資家による物色がより分散したことから、日本においては景気敏感で割安な小型株が日経平均株価、TOPIXを大きく上回って推移しました。

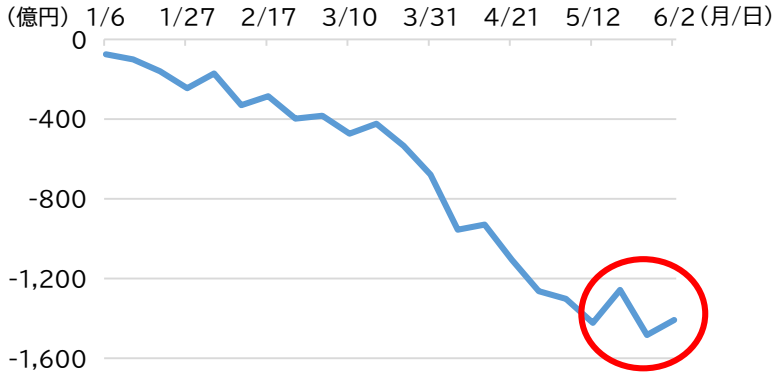
今年は2016年と同様の相場展開になると考えられ、大型株の上昇一服後は割安な水準にある小型株の優位性が高まると想定しています。

図表①:TOPIXコア30とTOPIX Smallの推移



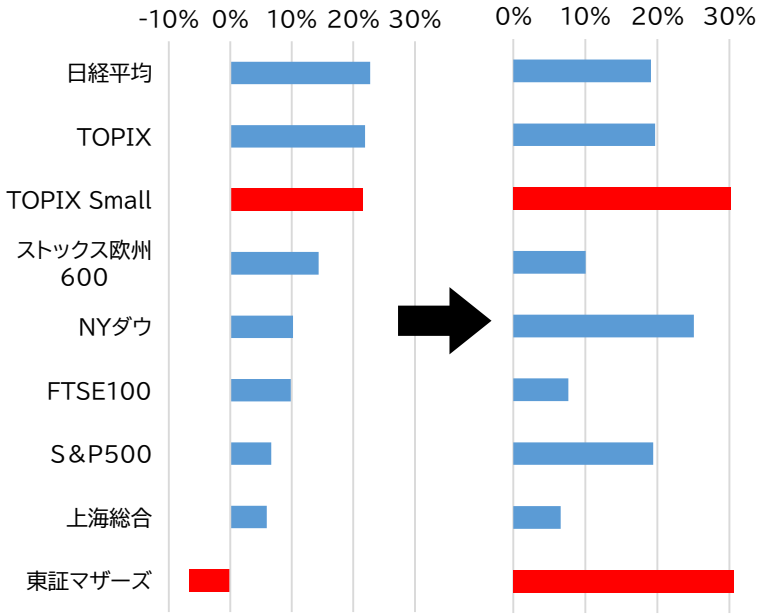
(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成
期間は2023年1月4日～2023年6月16日、2023年1月4日を100として指数化

図表②:グロース市場における海外投資家の売買動向



(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成
期間は2023年1月4日～2023年6月2日、週次

図表③:世界の主要株価指数騰落率
(左は2016年後半※、右は2017年通年の騰落率)
※ 2016年6月末～12月末



(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

ICHIYOSHI ASSET MANAGEMENT CO., LTD.
◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。